



親族内承継



従業員承継



第三者承継

事業承継年表

後継者がアルバイトとして入社



23年前

後継者が取締役営業本部長に就任



10年前



2か月前

先代の入院に伴い、正式な後継者として、BSDの支援を受けながら経営に奔走



2016年
代表者交代

BSDの支援を受けながら経営改善に取り組む



1か月後

事業承継期の経営危機を乗り越え、経営改善を実施

現社長(後継者)

入社のきっかけは学生時代のアルバイト

当社は、先代の齋藤年氏がビルのガラス清掃業として1988年に創業。佐藤社長は、友人の紹介で同社にアルバイトとして入社する。その後、先代に頼み込み同社の正社員として採用された。「当時は先代の知り合いから回ってきた現場仕事をこなす日々。従業員も3人ほどで、先代は『職人』という言葉が似合

う人でした」と社長は話す。少しずつ従業員も増え、会社の規模も大きくなり、佐藤社長は入社から13年後に取締役営業本部長の役職に就き、先代の右腕として営業と現場スタッフの管理を仕切る立場となった。

先代の長期入院をきっかけに、資金繰りに奔走

2016年2月、事態は急変する。先代が検査の名目で入院するも、1週間を過ぎても退院できず病状も悪化。先代が自ら資金繰りを行っていたため、給与の支払い、借入金の返済など経理処理が全てストップしてしまう。「実印も通帳もカードも何もかも、先代が持っていました。病院と会社を1日に2、3往復する日々を続けながら、先代に言われるままに、当時130人近くいたスタッフに支払いを行いました」と佐藤社長は当時を振り返る。先代に入金予定を聞きながら資金繰り表を作成した佐藤社長は、初めて資金繰りに危機感を抱く。メインバンクの信用金庫に相談したところ、事業計画策定のため、東京商工会議所のビジネスサポートデスク(BSD)を紹介される。そこから、BSDのコーディネーターから資金繰り表や決算書を見ながら経営指導を受けて、金融機関に提出する経営改善計画書を作成。「BSDの支援がなかったら、資金ショートしていたと思います」と社長は当時を振り返る。

代表取締役
佐藤 健一氏
(1970年生まれ)

株式会社 イーグルメンテナンス

主な業務内容 ビルメンテナンス業

東京都中野区沼袋1-19-9
設立:1988年(昭和63年)
資本金:1,000万円
従業員:150名(パート・アルバイト含む)
URL: <http://eagle-gr.co.jp/>

1円で株式を買い取り代表に。

BSDの支援を受け債務超過を解消

2016年4月に、佐藤社長は「このままでは次の借入が起こせない。私が株式を全部買い取ります」と事業承継を先代に申し出る。債務超過だったため株価はつかず、1株1円で株を買い取り代表に就任する。その2週間後、先代は息を引き取った。「先代が倒れてから半年くらいは記憶がありません。それくらい忙し

かった」と佐藤社長は言う。その後は、BSDの支援を受け、後継者経営塾にも参加し、財務管理や労務管理、顧客別採算管理などに取り組むとともに、会社の借入金や利益の状況は全ての従業員に開示して会社の透明化を図った。債務超過の解消を発表した際には、従業員も非常に盛り上がったとのこと。

後継者育成だけでなく、万が一のときの繋ぎの承継も準備

自身の承継時の経験を踏まえ、万が一の事態に備えて、生命保険に加入するとともに、知り合いの経営者とお互いの会社の株式を持ち合っているという。「何かあった際のリスクマネジメント。繋ぎの経営をお願いできる体制にしています」と社長。も

ちろん長期的な目で見たと際の承継準備も万全を期す。グループ会社としてコンビニ経営の会社を設立し、そこで若い従業員に経営の勉強をさせることで、後継者の育成にも取り組んでいる。

事業承継を考えているみなさんへメッセージ



現社長(後継者) 佐藤 健一氏

会社を引き継ぐことになったら、先代と一緒に早めに金融機関へ行って、後継者として認識してもらいましょう。また、専門家との人脈形成や、東京商工会議所のような、第三者の相談できる窓口とパイプを持っていれば安心できます。

ビジネスサポートデスク担当からのメッセージ

事業承継を円滑に進めるためには、後継者の育成や事業の磨き上げなどに経営者ご自身が考えている以上に時間が掛かります。まずは、事業承継を行う上での課題を整理し、対策を講じるためのプランを立てることが重要です。商工会議所がサポートいたしますので、お早めにご相談ください。